



# 開物成務

令和6年12月24日(火)発行

校長 津田 千由美

“すてきさん”が『つくる・そだてる』じまんの学校

## 「すてきさん」たちの活躍

季節はあっという間に進み、グラウンドに舞う枯葉もやっと一段落。落葉の最盛期には、たくさんのおもちゃたちが落ち葉はきを応援してくれました。自ら考え、進んで行動できるすてきさんが増えています。

先日は、1年生が、冬の風物詩である凧揚げを体験しました。ビニール凧には、キャラクターや動物など、思い思いの絵が大きく描かれていました。



凧をあげるというよりは、凧をなびかせるために走り回っていた子どもたちでしたが、青く澄み渡った空に自分の描いた凧が舞うことに、達成感を得ていました。

保護者や地域の皆様に支えられ、2024年も穏やかに暮れようとしています。安心安全な学校づくりにご協力いただき、「すてきさん」たちが成長していることに、心より感謝申し上げます。



## 体育巡回授業

6年生が「湘南ベルマーレ小学校体育巡回授業」を体験しました。ベルマーレフットボールアカデミーの2人のコーチが指導してくださるということで、子どもたちはこの日をとても楽しみにしていました。

数人のグループで1つのボールを追いかける子どもたちに向けて、コーチは次々と大事な言葉をかけていました。

「サッカーが得意な子も苦手な子も、足が速い子も遅い子も、みんな違うよね。これを合わせよう。」

「みんなで助け合わないといつのことが成り立たないよ。」

子どもたちの動きがどんどん主体的になっていきました。サッカーを思いっきり楽しみながら、自分で瞬時に考えて動くことや、失敗を恐れず積極的に動くことの大切さを体感しました。



身の国や小学校時代の経験などを、スライドを使って紹介してくださいました。

後半は、椅子取りゲームをしたり、お茶をふるまったり、折り紙をプレゼントしたり、各クラスが趣向を凝らして、おもてなしをしました。予定の2時間はあっという間に過ぎ、別れ際には、名残惜しそうにいつまでも手を振り続ける姿が印象的でした。

留学生の方々にとっても、子どもたちにとっても思い出深い交流となりました。



## おもちゃパーティー

生活科で「動くおもちゃをつくろう」の学習をした2年生が、その集大成として「おもちゃパーティー」を開くことになりました。招待状をもらった1年生は、この日をとても楽しみにしていました。

体育館に20近くの遊びのブースが創られ、「いらっしやい。こっちの方がすいているよ。」「みんな、まっすぐ並んでね。やり方を説明するよ。」

など、意欲満々の2年生でした。

3学期には、年長さんをお出迎えするという大役を務める1年生も、頼もしいお兄さん、お姉さんの姿を見て、学んでいます。



## 国際交流事業

東海大学の留学生8人が、開成小学校にやってきました。この日のために、5年生は総合的な学習の時間を使って準備を進めてきました。

「日本の文化を知ってもらおう」「学校を案内したい」「一緒に遊んで交流を深めたい」など、子どもたちから出された願いやアイデアを一つずつ形にしていきました。

迎えた当日、まず前半は留学生の方々のご自



# 人権朝会～だれもが幸せに～



12月4日～12月10日は人権週間、12月3日(火)には人権朝会が行われました。担当の石塚先生が、全校に向けて「ちっちゃなサリーはみていたよ～ひとりでもゆうきをだせたなら～」という絵本の読み聞かせをしてくださいました。

これは、朝会後の4年生のふりかえりです。

「主人公がとてもやさしいなと思いました。理由は、悲しい顔は見たくないと言っていたからです。自分もこの子のようにやさしくなりたかったです」

「勇気を出してみんなに言ったのがすごいと思いました。人権は、だれでも幸せになるための権利なんだと思いました」

絵本を通して、相手の気持ちを考えて行動することの大切さを学びました。

先日、地域の方から、「障がいをもっている方に対して、心ない言葉を発している子どもがいた」という悲しい知らせを受け取りました。人権とは、人間らしく自分らしく生きる権利です。「自分がされて嫌なことは相手にもしない」という大原則を、常に考えて行動できる子どもに育ててほしいと切に願います。



★12月19日(木)、学校保健委員会が開かれ、6年生と希望する保護者が参加しました。養護教諭からは、6年生対象に実施した睡眠アンケートの結果報告があり、夜10時まで睡眠している児童は、全体の半分に満たないことがわかりました。その後、「睡眠の大切さ」について講師の方からお話をいただきました(詳細は1月発行予定「保健だより」をお読みください)。

「睡眠時間を十分にとるためには、生活リズムを整えることが必要です。そのためには、平日も休日もできるだけ同じ時刻に起きるようにするとよいです。」

という言葉が心に残りました。

年末年始は生活リズムが乱れがちです。せめて、3学期が始まる週は、ご家族皆様で早寝早起きを心がけ、規則正しい生活リズムを取り戻していただけたらと思います。

## わたしのひとりごと

ある日、孫たちが家じゅうを舞台に鬼ごっこをしていました。お兄ちゃんたちにくっついて、一歳半のちびちゃんも一緒になって走り回っていました。おもしろいことに、タッチされそうになると、バアバに向かってまっしぐら。バアバの腕の中は安全地帯なのでした。

ある朝、通学路で泣いている1年生と遭遇しました。聴くと、友達とトラブルになった様子。私は、なだめたり、言い聞かせたりしましたが、「僕は、学校に行かない。ここにいる!」の一点張り。

このやり取りを見ていたある3年生が、1年生のそばにやってきました。そして、1年生と同じ目線に立ち、何やら話し始めました。あれほど頑なに動かなかった1年生が、数分後、その3年生と手をつないで歩きだしたのです。完敗です。

あとから、この3年生にそうと聴いてみました。

「どうやって説得したの?」

「ただ、『一緒に行こう』と言っただけです。」

(私も、何度も言ったんだけどなあ…)

おそらく私からは、「時間が無い、早くしないと」という切羽詰まったオーラが放たれていたのでしょう。子どもは敏感です。「この人なら安全だ」と選び取ったのが、3年生だったわけです。

こんな具合に、子どもたちは自分の安全基地をいろいろなところで作り、「安心」を得、そしてまた羽ばたいていきます。こうしたことを繰り返しながら、子どもはだんだんと親離れをしていくのでしょう。

子どもに限ったことではありません。どんなに屈強な大人でも四六時中飛び続けることは不可能です。今年一年、子育てを頑張った自分自身を労い、また来年子どもとともにたくさんのチャレンジができるよう、私たちも役割分担して羽を休めましょう。

今年も大変お世話になりました。ご家族皆様、健康にご留意され、良い年をお迎えください。

花ボランティアの大川さんが活けてくださいました↓

